

浜松市議会政務活動研究会会議録

1 開催日時

平成29年3月23日（木）午前11時開議

2 開催場所

第2委員会室

3 会議に付した案件

- 1 海外視察に伴う報告について（市民クラブ）

4 出席状況

○出席委員（10人）

議長（座長）	花井和夫	副議長	飯田末夫
委員	戸田誠	委員（代理）	高林修
委員（代理）	関イチロー	委員	徳光卓也
委員	松下正行	委員	酒井豊実
委員	鈴木恵	委員	馬塚彩矢香

○欠席委員（0人）

○議会事務局職員の職氏名

議会事務局長	山本泉	議会事務局次長 (議会総務課長)	小宮山敏郎
議会事務局副参事 (議会総務課長補佐)	木村晶子		

会 議

11:00

○花井和夫議長(座長) それでは、政務活動研究会を開会いたします。

本日、松本委員が欠席され、代理で高林修議員が出席します。また、新村委員が欠席され、代理で関議員が出席します。

市政記者及び一般傍聴人の傍聴ですが、協議事項1の海外視察に伴う報告については、申し合わせにより公開となっておりますので、よろしくお願ひします。

11:00

1 海外視察に伴う報告について（市民クラブ）

◎結論

市民クラブ徳光委員より海外視察についての報告がありました。

◎発言内容

○花井和夫議長（座長） それでは、協議事項1の海外視察に伴う報告について、市民クラブから説明してください。

○徳光卓也委員 1月20日から市民クラブが行いました、アメリカへの視察についてご報告させていただきます。お手元にあります報告書に沿って説明いたします。

まず、5ページですが、海外視察計画の概要です。大きく2つありまして、そのうちの1つが NAMM Show です。これは世界最大規模の楽器見本市で、去年は市長が招待されています。今年の NAMM SHOW には浜松市が出展するというので、市内の中小企業に声かけし4社が参加しました。ここでは、中小企業の海外展開に対する支援のあり方について考えたいということで視察を行いました。

また、市長が7月の定例会見において「浜松バレー構想」ということで、浜松バレーというコミュニティができれば、そこから新しい創業が生まれ、浜松の活性化につながるという話をされましたが、29年度予算には創業支援やベンチャー支援が盛り込まれていますので、ベンチャーの創業、支援の先進地であるロサンゼルスでインキュベーション施設を視察し、今後の本市の創業支援、ベンチャー支援のあり方に対する政策提言につなげていきたいという大きな目的がありました。

7ページですが、視察が実り多いものになるよう事前勉強を行いました。まず、11月に東京ビックサイトで行われた日本最大規模の楽器総合イベントである「2016 楽器フェア」を視察しました。さまざまな楽器が所狭しと並べられ、手に触れることもでき、大変驚きました。この楽器フェアには、本市にゆかりのあるヤマハや河合楽器、ローランド、鈴木楽器などの企業もブースを並べていました。8ページですが、今回初めて「楽器のまち浜松市」として市内の4企業がブースを出され、実力をアピールしていました。NAMM Show の視察の参考になるのではないかとということで、この4社にいろいろな意見を聞いてきました。やはり、このような大きなイベントに出展するのは効果的であるという印象もありましたし、浜松市ブースを出展するという形で中小企業を後押ししていくことも必要だということがわかりました。

10ページですが、昨年12月、JETRO ロサンゼルス前所長の吉村さんが浜松に来られる機会があるということで、その時にお話を伺いました。NAMM Show について、その後に視察する音楽学校 MI やロサンゼルス周辺のインキュベーション施設の概要についてお話を伺い、意見交換をさせていただきました。我々も NAMM Show については実態がつかめず、印象があまりなかったのですが、世界最大の楽器見本市で10万人の来場者があるということや、浜松市ブースの出展は中小企業のビジネスチャンスにつながる可能性が大いにあるということをお聞きしました。また、MI の校長であるドギーさんがとても前向きな方で、浜松にも来られたこともあり、浜松はすごいと驚かされていたというお話も聞き、お話を聞いてみたいと思いました。インキュベーション施設については、浜松には世界企業もあり、創業を目指すのにしっかりしたものづくりのベースがあるというご意見もいただきました。

6ページ、視察の行程ですが、1月20日から26日までの5泊7日で行いました。ただし、行程表を詳しく見ていただくと、初日は羽田空港を飛び立ったのが22時55分ですので飛行機に乗り込んだだけでした。また、最終日の7日目は羽田到着が5時25分ということで、1月20日から26日までの行程ですが、実際にアナハイム、ロサンゼルスで視察を行ったのは4日間です。

それでは、各視察についてお話をさせていただきます。12ページから担当に分けて報告書を作りま

した。

まず、NAMM Show ですが、17 ページをご覧ください。NAMM Show の会場地図です。これだけ見ても非常に大きな規模であることがわかると思いますが、真ん中の白抜きになっているところが浜松市ブースの場所です。会場はアナハイムコンベンションセンターで、浜松市ブースを含むスペースが NAMM Show のメイン会場となっています。下の方に入口が幾つかあって、会場に入っていくようになっています。浜松市ブースは入口から一番遠いところで、決してよい場所とは言えませんが、規模はこのような感じですか。上の地図が2階、その上が3階です。メインブースの左にある囲みが地下のブースです。メイン会場の右端に丸く囲まれたところはアリーナで、周りに観客席があるスペースとなっていて、通常はバスケットボールの試合などに使われていますが、こちらも NAMM Show の会場となっています。メイン会場の一番下、オレンジの部分が鈴木楽器のブースです。鈴木楽器はエントランスからすぐの非常に目立つ場所です。2階に河合楽器のブース、3階にはローランドのブースがあります。会場の外のマリOTTホテルの1階スペースが全てヤマハの展示スペースとなっており、非常に大きなスペースを使っています。浜松ゆかりの企業は非常に認知度があるのですが、浜松市がなかなかそれに結びついていない、これがこれからの課題だと思います。

NAMM Show は土曜日曜で視察しましたが、2日間ではとても回り切れない規模でした。その中でも、ヤマハブース、河合楽器ブースは現地法人の社員の方がとても詳しく話をしてくださり、ブースもご案内いただきました。浜松市ブースは、よい場所ではなかったのですが、人がひっきりなしに来る状況で、成約件数 21 件という成果も上げています。先ほど事前勉強のところでお話ししましたが、楽器ショーは入場料を払えば誰でも入場できるものですが、NAMM Show は会員またはその会員に紹介された方しか入れないということでした。

10 万人以上の方が来られるということで、ビジネスチャンスが多くある見本市であるという印象を受けました。その中でこの4社は、社員 10 名程度という本当に小さな規模ですが、しっかりと技術を持っていて、ヤマハ、河合楽器、ローランドなど大手の企業とも取り引きされ、エンドユーザーにもつながっています。技術力のある企業はこのような見本市でもしっかりと成果を残せることを実感したところです。ぜひ今後も、浜松市ブースの出展を続けていただきたいし、より多くの企業がこういうところに出展するなど、海外市場も視野に入れていくべきだという確信を得ました。詳細は報告書をお読みいただきたいと思いますが、NAMM Show への出展は、非常に将来性があると感じています。

翌日はロサンゼルス市に移り、まずは MI といわれる音楽学校を視察しました。ハリウッドの中心にあり、MI から歩いて5分くらいのところにチャイニーズシアターがある場所です。1500 人の学生がいる学校で、オーナーは日本人です。ESP というギターメーカーの会長である渋谷氏が事業を引き継ぎ、オーナーになったということです。本格的に音楽に取り組もうという方々がここを昼夜問わず利用しています。学校内を案内していただきましたが、授業は5、6人程度の少人数での授業を行っていて、1人でも夜中に来ているいろいろな活動をしたり、楽器を弾いたりできるスペースがあります。また500人規模のコンサートホールがあり、そこでは卒業間近の生徒や先生などがコンサートを行ったりもしています。22 ページの写真は、視察時に行われていたコンサートの様子です。校長のドニーさんがコンサート前、浜松から来た我々を紹介してくださり、浜松はヤマハ、河合楽器、ローランドなどの企業がある場所だと説明していただくと、生徒たちから「おおっ」という歓声が上がり盛り上がり上がってくれました。

今後、はまホールの検討が進むと思いますが、音楽のまちを目指す本市にもこのような施設が必要なのではないかという印象を持ちながら話をしてきました。24 ページの写真ですが、オーナーの渋谷会長とはお会いする予定はなかったのですが、我々がドニー校長に校内を案内していただいている時、ちょうど渋谷会長が来られまして、音楽観やここで学校を運営していく覚悟などのお話もいただけ、非常に貴重な経験になりました。初めはなかなか受け入れてもらえなかったとのことですが、そのような中

でも頑張っていくことで今のように仲間も広がっていくので、信念は大切だと話され、人生観などもお聞きしました。

2時間の視察予定が1時間オーバーして3時間になり、非常に有効な視察だったのではないかと考えています。

31 ページ、午後からは JETRO ロサンゼルスに伺いました。こちらは、今回の NAMM Show 視察のためにいろいろと奔走していただいたところで、MI もぜひ見た方がよいと紹介していただきました。こちらでは、カリフォルニアやロサンゼルスについてお話いただいたり、NAMM Show 視察の考察について意見交換をしたりと1時間余りの滞在でしたが、いろいろな意見交換ができたと思っています。

32 ページ、ご存知かと思いますが、カリフォルニア州の経済規模は、国別のランキングに入れると5位と6位の間にいるほどの大きな規模です。最も先進的なエネルギー規制や政策を導入し、世界をリードしています。自動車のゼロエミッション規制も2009年から開始され、環境にも非常に力を入れているとお話でした。後に伺う LACI は、ロサンゼルス市とロサンゼルス水道電力局が共同設立した施設で、起業を目指す方からは、公社と直接つながりができ、売り込みができるということで人気が高いとお話もお聞きしました。

シリコンバレーですとスタンフォード大学があったり、起業を目指す人が多いところには必ず有力大学が背景にあります。浜松には大学はありますが、有力大学といわれるかというところではなく、この環境はどうかと質問したら、浜松にもいろんな方を排出されてきた立派な大学もありますし、大企業がこれだけ地方企業に集まっているというのは非常に珍しく、そういう中で大企業にも売り込みができる、またしっかりした技術が集積し、ものづくりの基礎がある浜松では、起業家の試作などを手伝えるところがあるかもしれない、そのようなところで浜松バレー構想は現実味がある構想なのではないかとお話もいただきました。また、NAMM Show は楽器の見本市ですが、楽器もさることながら、音楽の総合見本市という位置づけでもあるので、ぜひ浜松市には、楽器やものづくりを売り込むというよりも、音楽を売り込むことを目的として出展してはどうかというお話もいただき、本市は音楽の創造都市ということでユネスコのネットワークにも加入しましたし、音楽もしっかり根付かせていかなければいけないという気づきの契機にもなった視察でした。

25 ページ、LACI についてですが、こちらのインキュベーション施設は非常に人気があり、ここで起業を目指したい方全てを受け入れられるわけではないそうです。ここは環境に特化した施設で、施設内にはラボがあります。自分たちで試作ができる3Dプリンターや様々な工作機械が備えてあり、ラボでモノを作ってプレゼンテーションしたり、実験したりすることができます。これから本市のインキュベーション施設を考えていく上で、このラボのような施設も必要なのではないかと考えました。

また、25 ページの写真で我々が写っている場所は、水道電力局や周辺企業に対し、ここで起業を目指す方がプレゼンテーションを行いマッチングさせる場になっています。企業と起業家とのマッチングができるこのような場は非常に大切だと感じました。

36 ページですが、視察後に産業部との意見交換を行いました。産業部からは、NAMM Show 浜松市ブースを直接担当された瀧下次長、中野さん、中田さん、これからベンチャー支援の中心人物になれる米村さんの4人に来ていただき意見交換をしました。その中で、瀧下次長から、来年以降も NAMM Show への出展は続けていきたいというお話があり、中野さんからは成約件数が21件あったこと、またこれは本当に誇りたいことですが、この NAMM Show に浜松市として出展するに当たっては、業者に丸投げではなく、実は産業部の瀧下次長や中野さんたちが手作りで出展準備をされたということで、37 ページの一番下ですが、主催者側と直接交渉し、出展したことが大変貴重な経験となり、これを経験したことで、世界のどこで開かれる見本市でも出展できる自信になったとのことで、職員のスキルアップにもつながっていることを改めて感じました。これは浜松市として非常に誇らしいことだと思っています。

39 ページの真ん中あたりですが、浜松市ブースでの出展はスタートアップの場であるということ、すべて行政でお膳立てしてもらっての出展ではなく、何回か経験したら自分たちで独立してやっていけるようにしたいということ、ヤマハ、河合楽器、ローランドというような個々のブランドは確立できていますが、今後は浜松市としてのブランドづくりが必要ではないかということなどについて産業部と意見交換をしました。また、ベンチャー企業支援については、やはりラボのようなところが大事だということで、モノづくりのベースがある中小零細企業が多く立地する本市には起業を手助けしてくれるところもあり、このようなところも強みとして生かしていけるよう考えていかなければいけないと思いました。大企業やそれぞれの専門を持った企業が浜松には多くあるので、起業を目指す方とのマッチングもできるようにしていきたいということで産業部との意見交換を終えました。雑駁ではございますが、以上、海外視察報告とさせていただきます。

○花井和夫議長(座長) 市民クラブからの報告が終わりました。本当にお疲れ様でした。それでは意見、質疑等ございましたらお願いします。

○戸田誠委員 報告ありがとうございます。徳光委員の報告を聞きながら報告書を斜め読みさせていただいたのですが、徳光委員の説明を全て報告書に記載していただくほうが、市民の方が見た時にわかりやすいと思いました。報告書の内容は省かれていて、説明のほうがわかりやすかったと思います。充実した視察だと思いましたが、できれば、徳光委員がお話したことをもう少しこの報告書に記載していただければ、私たちは説明を聞く機会がありますが、市民の方は報告書を読むことしかできないので、ぜひ次回はそうしていただけるとよろしいかと思いました。

○徳光卓也委員 貴重なご意見で、今後報告する際ご意見をしっかり頭に入れて報告させていただきたいと思います。今私が説明した内容は、実はこの報告書に書いてある内容をかいつまんで説明していて、報告書を読んでいくとどこかにあります。報告書を読んでいただければ伝わるかと思いますが、貴重なご意見として、これから私たちも伝えるということの大切さも考えていかなければいけないということを肝に銘じたいと思います。ありがとうございます。

○飯田末夫副議長 報告ありがとうございます。戸田委員からもありましたが、内容が非常に充実しているということが説明でよくわかりました。海外視察に当たり、いろいろな困難や苦労もあったかと思います。そのような中で今回音楽の関係を中心に視察されたわけですが、視察の際には自治体関係の方と接触したりしようと思ったりもします。今回、自治体関係の視察はなかったですが、そういったことで苦労したこと、本当はこうしたかったけれどできなかったことがありましたら教えてください。

○徳光卓也委員 自治体の方と会う考えはありませんでした。我々は民間企業の出身が多いということもあるのかもしれませんが、とにかく現場を見ようということで視察を行いました。今回の視察についてはJETROの方からいろいろな情報をいただきました。JETRO前所長の吉村さんへの訪問も、実は我々が東京まで行ってお話を伺おうかと思っていたのですが、たまたま浜松に来られる機会があり、ご配慮いただけたら、またMIの視察にはJETROロサンゼルスの方が同行して下さったり、自治体ではないですが、JETROの方々にはいろいろと教えていただきました。今後、この内容についてさらに掘り下げていくときには自治体などを考えていかなければならないと思っていますが、今回はこれでよかったですと思っています。

○飯田末夫副議長 いろいろと調べるに当たり、インターネットなどでも調べられますが、直接見て触れて感じるということは非常に大事なことだと思います。直接話を聞くことは非常に有効だと思いますので、今回の視察を市政に生かしていただけたらと思います。

○徳光卓也委員 ぜひ皆さんも機会があればNAMM Showへ行っていただければと思います。

○花井和夫議長(座長) 視察報告ありがとうございます。以上で海外視察に伴う報告を終わります。

なお、申し合わせにより、会議録は議会ホームページで公開します。また、海外視察報告書について

も議会ホームページで公開するとともに、議会事務局において閲覧に供しますのでよろしくお願い致します。

11 : 35